

2017 年 7 月 10 日

経済産業大臣 世耕弘成 殿
環境大臣 山本公一 殿
岩手県知事 達増拓也 殿

岩手県北上高地のイヌワシ生息地の保全を求める意見書

日本鳥学会鳥類保護委員会
委員長 佐藤重穂

イヌワシ（学名 *Aquila chrysaetos japonica*）は北海道から九州の山岳地帯に生息する大型の猛禽類であり、日本の陸上生態系の頂点に立つ種の一つです。日本イヌワシ研究会によれば、現在、全国でおよそ 150・200 つがいの生息が推定され、近年、著しい繁殖成功率の低下が報告されています。また、環境省のレッドリストにおいて絶滅危惧 IB 類（近い将来に絶滅の危険性が高い種）とされているほか、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種、文化財保護法に基づく天然記念物に指定されています。

岩手県北上高地はイヌワシの繁殖つがいの生息密度が特に高い地域で、北上高地全体で 30 つがい以上が確認されており、国内のイヌワシ個体群の維持において最も重要な生息地の一つです。

現在、この地域では多くの風力発電施設の建設が計画されており、これらの事業のうちのいくつかは環境影響評価の手続きが進行中です。イヌワシを含む大型猛禽類では、日本国内も含めて世界各国で風力発電用風車への衝突事故（バードストライク）が発生しています。また、イヌワシ研究会の独自調査や事業者による環境影響評価のための現地調査により、風力発電施設の計画地やその周辺に、イヌワシの重要な採餌場となっている場所があることも確認されています。イヌワシにみられる近年の繁殖成功率の顕著な低下は、好適な採食環境の減少による可能性が指摘されていることから、現在計画されている風力発電施設の建設が進めば、バードストライクの発生が危惧されるとともに、イヌワシが風車を避けて餌の探索をせざるを得なくなることで採餌場として利用できる面積が縮小し、この地域のイヌワシ個体群の存続にとって大きな脅威となることが危惧されます。

以上をふまえ、日本鳥学会鳥類保護委員会では北上高地のイヌワシ個体群を保全するため、以下の事項について要望するとともに、経済産業大臣、環境大臣、岩手県知事には各要望事項に対する具体的なご意向について回答していただけますよう、お願い申し上げます。

1. 北上高地周辺で現在計画中の風力発電施設建設事業の環境影響評価において、イヌワシにおける風車衝突事故の発生や、風車回避行動による採餌場の面積縮小がもたらす

イヌワシへの影響が、科学的根拠に基づいて適切に予測評価されているかを審査し、不足がある場合には事業者への指導を行うこと。

2. 環境影響評価においてイヌワシへの影響が予測される場合は、予防原則に基づいた影響の回避・低減策がとられるよう指導を行うこと。さらに、それらの対策を講じてもその効果に不確実性が伴う場合には、適切な事後調査を実施し、再評価を行うよう指導すること。
3. 環境影響評価にあたっては、個別の事業だけでなく計画中のものも含め、近接する複数の風力発電施設が与え得るイヌワシへの影響が、予防原則に基づいて適切に予測・評価されているかを審査すること。
4. 上記の1から3の影響の予測・評価において、日本イヌワシ研究会をはじめとする有識者へのヒアリングが実施され、その意見が取り込まれていること。また、個別事業および複数事業によるイヌワシの生息への影響が大きいと予測される場合には、予防原則に基づき、立地の見直しや事業規模の縮小も含めて影響を回避・低減するための慎重な対策がとられること。
5. とくに、複数事業による影響の評価手法は確立されていないことから、関連事業者（累積的影響の可能性が想定される事業者）、自治体、日本イヌワシ研究会など関連分野の専門家、地元有識者、鳥類保護団体などから構成される検討会が経産省また環境省により設置され、予防原則に基づいた影響の回避・低減について協議されること。

関係行政機関におかれましては、北上高地のイヌワシの個体群が保全されるよう、これらの点をふまえた審査や事業者へのご指導を強くお願いするとともに、イヌワシの生息地保全のために必要な措置をとっていただくよう、要望いたします。

【連絡先】

日本鳥学会鳥類保護委員会 委員長 佐藤重穂
〒062-8516 札幌市豊平区羊ヶ丘7 森林総合研究所北海道支所
Email : shigeho@affrc.go.jp

添付資料 岩手県北上高地のイヌワシ生息地の保全を求める意見書の背景説明資料

1)イヌワシについて

種イヌワシ（学名 *Aquila chrysaetos*）タカ目タカ科に所属する猛禽類であり、ユーラシア大陸、アフリカ大陸北部、北アメリカ大陸北部に分布する。5 亜種に分けられ、亜種イヌワシ（学名 *Aquila chrysaetos japonica*、亜種ニホンイヌワシと表記することもある）北海道から九州までの日本列島および朝鮮半島に生息する。

出典：日本鳥学会（2012）日本産鳥類目録改訂第 7 版.

参考：日本イヌワシ研究会ホームページ

<http://srge.info/about-ge>

<http://srge.info/topic/feature/159>

2)北上高地におけるイヌワシ個体群について

岩手県北上高地は日本国内でイヌワシの生息密度のもっとも高い地域であり、北上高地全体で 30 つがい以上が確認されている。これは現在国内で確認されている繁殖つがいの 15～20%に相当すると推測され、国内のイヌワシ個体群の維持のためにも最重要な地域であると考えられる。

参考：樋口広芳（2016）岩手県北上高地における風発施設建設とイヌワシの保全（要望）

<http://srge.info/news/news-propo/779>

3)北上高地における風力発電事業の計画について

北上高地には、現在環境影響評価の手続き中の宮古岩泉風力発電事業以外にも、複数の風力発電施設の事業が実施、もしくは計画されている（釜石広域風力発電事業拡張計画、住田ウィンドファーム事業、住田遠野風力発電事業、葛巻ウィンドファームプロジェクトなど）。

参考：岩手県環境影響評価手続状況

<http://www.pref.iwate.jp/kankyuu/hozen/jokyo/index.html>

4)イヌワシの風車へのバードストライクの事例について

岩手県内の既設の風力発電施設である釜石広域風力発電事業において、建設の 3 年半経過後の 2008 年にイヌワシの風車への衝突死が発生している。

参考：日本イヌワシ研究会（2016）

<http://srge.info/news/news-propo/771>

5)岩手県の風力発電導入構想について

岩手県は風力発電の導入を一層促進するため、導入可能性が高いと見込まれる地域を選

定した風力発電導入構想を平成 27 年 3 月に策定した。この構想では、希少猛禽類の生息地域も地域選定で考慮されている。県内の 4 箇所が導入可能性の高い地域として選定されているが、北上高地および周辺地域は選定されていない。

参考：岩手県（2016）風力発電導入構想の策定について

<http://www.pref.iwate.jp/kankyouseisaku/energy/037272.html>

6) イヌワシの採食環境の減少と繁殖成功率との関係について

1980年代には6つがいのイヌワシが生息し、2012年には3つがいに減少した鈴鹿山脈では2010年以降、雛は一羽も巣立っておらず、この原因として伐採地の消失による好適なハンティング環境の不足が推測されている。また、北上高地に生息するイヌワシの調査を行った由井・前田（2006）では、近年の顕著な繁殖成功率の低下は、イヌワシの好適な採食環境の減少による可能性が指摘されている

出典：山崎 亨(2013) 第1章 イヌワシとクマタカの分布と生息場所利用. 樋口広芳編 日本のタカ学, pp. 15-36. 東京大学出版.

《参照web資料》

日本イヌワシ研究会（2015）つがい数の減少と繁殖成功率低下の 33 年間の推移

<http://srge.info/news/news-press-release/712>

日本イヌワシ研究会（2016）「(仮称)宮古岩泉風力発電事業」に対する意見書

<http://srge.info/news/news-propo/771>

(株)グリーンパワーインベストメント（2016）(仮称)宮古岩泉風力発電事業環境影響評価準備書

<http://www.pref.iwate.jp/kankyou/hozen/jokyo/index.html>

（岩手県環境影響評価手続き状況；現在該当案件について縦覧不可）

岩手県環境影響評価手続き状況

<http://www.pref.iwate.jp/kankyou/hozen/jokyo/index.html>

岩手県（2016）岩手県風力発電導入構想

http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/material/files/000/000/037/272/iwatewind_h2703.pdf



図1. 北上高地の位置

(出典サイト)

<http://studental.net/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E5%9C%B0%E5%9B%B3-%E6%9D%B1%E5%8C%97%E5%9C%B0%E6%96%B9/>

「STUDENTAL 日本地図東北地方」に北上高地を加筆

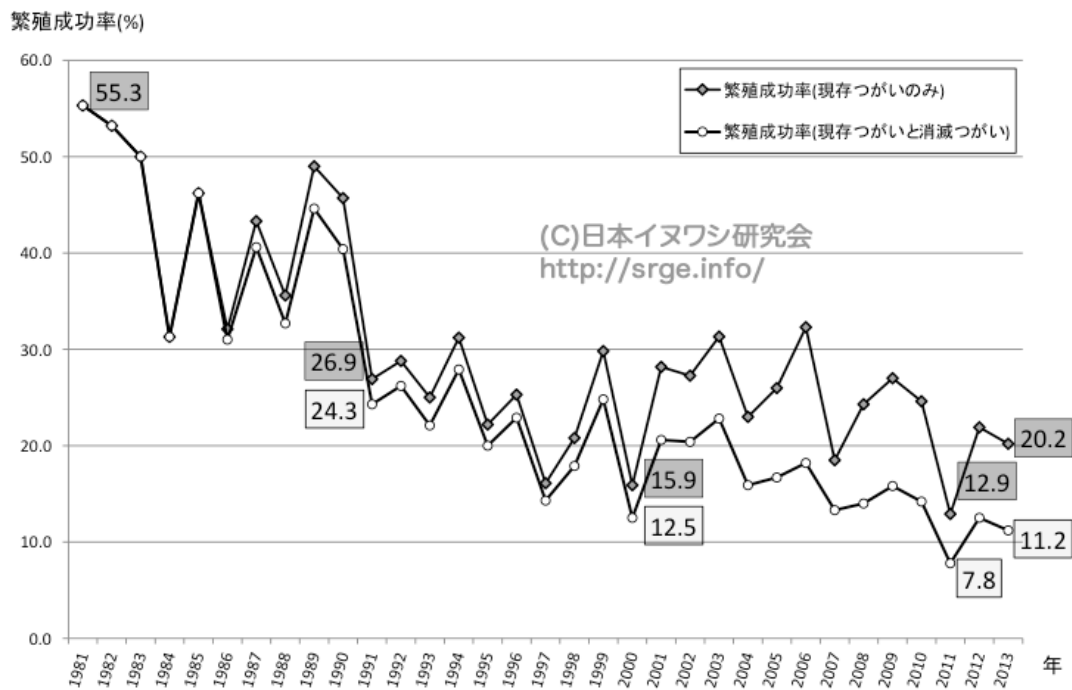


図2. 日本国内のイヌワシの繁殖成功率の推移

日本イヌワシ研究会の調査による

(出典サイト)

<http://srge.info/about-ge/about-ge7>